令和6年度 県立置賜農業高等学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価)

学校教育目標	1 心身ともに健康で、主体的に逞しく生きる人間を育成する。
	2 豊かな教養と主体的学習の習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。
	3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。
	4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。
めざす生徒像	「いのち」を育み、「こころ」を育み、「ひと」を育む学校 元気・活力・勢いを創り出す、明るく逞しい置農生
学校経営方針	1 『いのちをつなぐ』人づくり ・自尊意識を高め 共生の心 生命への慈しみを育む
	2 「学びを生かす」人づくり ・知徳体が調和し 主体的に課題解決できる力を育む
	3 「地域をつくる」人づくり ・ふるさとを愛し 地域の未来をきりひらく力を育む

具体的目標	1 「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成
	2 確かな「学び」と個に応じた支援
	3 地域との協働を通して地域をつくる生徒を育てる学校づくり

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価					学校関係者評価
番号	評価項目	重点目標	具体的取組目標、方策・数値目標等	達成度	成果(○)と課題(▲) 次年度に向けた改善策等(◇)
1	「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成	(1)「いのちの教育」の推進 ①多様な価値観の尊重に基づく関係性構築の育成に取り組む。 ②いじめのない学校を目指し、いじめの防止や早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ③安心・安全な学校づくりの推進	①良好な人間関係づくり(面談や集会の定期的な実施) ②生徒理解の充実(スクールカウンセリング、いじめ対策面談、各種調査) ③危機管理体制及び施設設備の安全点検(避難訓練、安全点検) ◇ 全校出席率99% ◇ いじめ解消率100%	B	○健康・食育に係る指導が行き届いている。 ・生徒94.7% 保護者93.9% ○学校の防災指導が行き届いている。 ・生徒95.5% 保護者89.5% ○生徒会役員の活動により、生徒総会時に川西町長との意見交換会が実現した。 ○家庭科の授業の中で外部講師による防災と非常食づくりの講座を実施できた。 ○農業クラブ全国大会(意見発表)で最優秀を受賞。 ▲農業クラブ活動に生徒全体が積極的に取り組める体制づくり。 ▲SNS関連トラブルについての対応は年間を通じて計画的に実施する必要がある。 ◇いじめ予防や対応について生徒の状況を把握し、いち早く職員内で情報を共有する。また保護者の理解を得るために丁寧な説明も必要。 ◇すべての部活動において年間計画の作成とその公開および適切な実施。
		(2)社会を健全に生き抜くための規範意識の醸成 ①集団生活の中で社会のルールやマナーの大切さを学び、規範意識を育てる。 ②情報活用能力を育成し、ネット社会におけるトラブルの未然防止に組織的に取り組む。	①法令遵守の徹底(交通安全講話、薬物乱用防止講話) ②SNS活用指導の徹底(情報モラル講話) ◇ 自転車通学に係る違反(イエロー切符 年10件以内) ◇ SNSトラブル0件		
		(3)心身の健康維持・増進への積極的な態度の育成 ①健康教育等を通して基本的な生活習慣を確立させる。 ②農業クラブ活動や生徒会活動を推進し、社会や指導性を育む。 ③読書活動を充実させ、豊かな心の育成を図る。 ④部活動等を通して健康な身体と豊かな心を育てる。	①食育の推進(「食事と健康」に係る授業) ②リーダー研修会 ③読書機会の積極的な活用と推進(図書委員会の充実、授業による図書館活用) ④各種大会への計画的・積極的な参加促進(全員加入、適切な休養を組み込んだ部活動の充実) ◇ 部活動加入率100%		
2	確かな「学び」と個に応じた支援	(1)「学び」の充実 ①生きる力の源となる学力の基礎・基本を定着させる。 ②農業の知識、技術等の学びを通し、高い志を持つ担い手を育成する。 ③教科横断的な探究学習、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ④ICTの適切かつ効果的な活用と個別最適な学びの研究	①教育課程の適切な実施(観点別評価の充実、授業評価) ②新しい技術や情報の積極的な利用(ICT、AIなどスマート農業に関する授業の充実) ③主体的、対話的で深い学びの実現(授業改善) ④一人1台端末の活用法(各教科内での情報交換) ◇ 「学習活動」肯定度85%	A	○学力や努力を適切に評価している。 ・生徒96.3% 保護者93.0% ○授業におけるICT等が活用されている。 ・生徒85.1% 教職員94.4% ○プロジェクト学習が充実している。 ・生徒95.5% 保護者96.5% ○地域に根ざした農業学習ができる。 ・生徒92.5% 保護者90.4% ○教育相談等、丁寧な対応が行き届いている。 ・生徒96.3% 保護者96.5% ○進路実現に向けて計画的な指導が行われている。 ・生徒94.0% 保護者85.1% ○総合的探究の時間や外部機関との連携の結果、生徒の進路意識が高まってきている。 ▲家庭学習や読書の習慣の定着。 ・保護者34.2% ▲教科指導の充実に向けて、他教科との連携が意識が少ない。 ・教職員64.1% ◇「分かる授業」を心掛けているが、生徒が授業に主体的に向かうように指導体制が必要。 ◇配慮を要する生徒に対する特別支援体制は昨年より向上している。更なる組織的な体制の構築。 ・教職員(R5 79.5%⇒ R6 84.6%)
		(2)キャリア教育の推進と進路指導の充実 ①置農キャリア教育実践プランに基づいた計画的・組織的なキャリア教育を実践する。 ②地域や産業界との連携を強化し、実効的な勤労観と職業観を醸成する。 ③高校での学びが活かせる、より適切な進路選択と進路先の開拓に取り組む。 ④生徒の進路意識を段階的に高める計画的な指導を確立する。	①進路指導の組織的対応(個別指導・進路ガイダンスの実施) ②産業視察やインターシップの実施 ③地域産業界との連携推進(農業法人・団体との交流会の開催) ④進路探究の充実(進路面談、総合探究の時間の活用) ◇ 「地域に根差した農業教育」肯定度85% ◇ 「進路指導」肯定度85%		
		(3)個に応じた支援体制の充実 ①教育相談体制を充実させ、個々の生徒に的確に対応する体制づくりを推進する。 ②特別支援教育の視点からの指導・対応について教員間で情報共有を図る。	①関係機関との連携による実効的な取組推進(スクールカウンセリング・特別支援巡回相談) ②校内組織による定期的な情報共有(進路指導委員会) ◇ 「教育相談」肯定度85% ◇ 「特別支援教育」肯定度85%		
3	地域との協働を通して地域をつくる生徒を育てる学校づくり	(1)郷土を理解し、地域の担い手となる心の育成 ①関係機関と協議し、生徒が地域への興味関心を高める取り組みを推進する。 ②主権者教育を醸成し、地域や社会に関心を持たせる指導を推進する。 ③地域活動への参画等を通して、地域の魅力や課題を知る取組を推進する。	①PTA・外部団体等との連携 ②主体的な生徒会活動(生徒会活動の生徒主体運営) ③地域行事へ参加(こまつ市、森のマルシェ) ◇ 「地域・連携」肯定度85%	A	○本校は保護者や地域から信頼されている。 ・生徒94.0% 保護者93.9% ○本校は地域・保護との連携を密に取っている。 ・教職員92.3% ○本校HPやYouTube「置農チャンネル」は本校の魅力を十分に発信できている。 ・生徒82.8% 保護者89.5% 教職員92.3% ○オープンスクール・体験入学で満足度は、ほぼ100%(参加中学生)。参加者総数は約188名(中学生・保護者等) ▲ボランティア活動や地域活動等に主体的に参加できるように広報する。 ・生徒76.1%(参加肯定度) ▲学級減に伴う教職員数の減少の中で地域からの様々な派遣依頼の対応。 ◇学校運営協議会と産業教育連携協議会と連携し、本校の特色や魅力を地域に発信して本校の存在意義の向上を図る。
		(2)地域や関係機関との持続的な連携体制の確立 ①学校運営協議会、産業教育連携協議会を活用し、教育活動の充実を図る。 ②町や地域、関係機関とのネットワークを構築し、その充実を図る。 ③農業クラブ活動や生徒会活動等を通して小・中学校との連携を深める。	①円滑な運営と2つの組織の連携 ②同窓生からの講演や外部講師活用 ③置農ファンクラブの実施(年5回) ◇ 「地域・連携」肯定度85%		
		(3)地域等への学校の魅力の効果的発信 ①ホームページ等を定期的に更新し、学校の取組みを積極的に発信する。 ②教育実践や研究の成果を積極的に還元する。	①地域への広報活動(学校HPの充実) ②中学生・保護者への広報(オープンスクール・体験入学・学年通信・進路だより・さくら連絡網) ◇ 学校見学者200名 ◇ 「地域・連携」肯定度85%		
					◆健全な心身の育成に必要な健康や食育の指導は肯定意見の割合が高いことは評価される点である。規範意識が身につく、社会に出てからもそれが活かされるような指導を引き続き力を入れていただきたい。 ▽授業等でのICT活用に関し、先生方に比べ生徒の評価がやや低いようである。生徒がもの足りないと感じている点なども把握しながらより良い方向に発展できるよう期待する。 ▽「健康・食育に係る指導が行き届いている」の達成度は90%を超えている。健康を考える。そのために食育を考える。その元となるのが「農」なので点を線とする教育を引き続き行っていただきたい。 ◎教育相談等が充実し、丁寧に対応されていることがアンケートから伺える。ただ、SNSトラブルは表面化しないこともあるため、今後とも生徒や保護者とのコミュニケーションを充実させていく必要がある。 ◎農業クラブでの成果が出てきていると思う。「一人ひとりの探求」課題をもつことの重要性を理解し、教員のバックアップ体制ができていると考える。
					◆農業経営は規模の大小問わず経費が経営を圧迫している。作って売るとい時代から作ったものに付加価値を付けて売る。農業経営学が必要である。そのためには多くの職種からの講演や意見交換が必要。 ◆総合的探究が生徒の意識を高める効果があることで、その活動をより充実させて、生徒が主体的に学習や進路選択に取り組めるようサポートしていただきたい。 ◆折角、置賜には資格取得のため指導体制がしっかりしているのに取得に取り組んでいない生徒が約1/3いることに驚いた。これからの時代、様々な資格を持っていることで有利になることが多いので、力を更にいれていただきたい。 ▽授業等でのICT活用に関し、先生方に比べ生徒の評価がやや低いようである。生徒がもの足りないと感じている点なども把握しながらより良い方向に発展できるよう期待する。 ◎一番求められている、「地域に根差した農業学習ができる」「プロジェクト学習が充実している」の項目で高評価であることは大変素晴らしい。 ◎進路指導や悩み相談に対する先生方の対応について生徒の評価が高い。日頃の学校生活において信頼関係が築かれている。
					◆公立高校の特徴として「地域協力」がある。これまで多くの場面で積極的に地域活動へ参加があり、今後も引き続き活動を充実していただきたいと考える。 ◆就職・進学先に地元を選択する生徒が多いことは、将来の地域社会を担う人材が多いということ。人口減少社会のなか、地域をよくするために何が出来るかを考えて行動できる人材の育成が一層望まれる。 ▽「地域協力」は学生だけのものではなく、地域には得意とする分野をもつ方が多くいる。地域の力を積極的に活用することが重要であり、協力者は多くいるはず。 ▽オープンスクールで保護者向けに行った「卒業生からの話」を中学生にも聞かせたい。 ◎置農と川西町、地域組織など農業教育に関わる活動は十分になされていると思われる。 ◎町や地域、関係団体等との交流活動を積極的に実施しており、学校や生徒に対する期待も大きい。 ◎こまつ市などの行事の参加を通して地域からの信頼につながっている。